

令和6年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立出雲小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・学年花壇を活用して、年間を通した植物の栽培・観察など、実物に触れる体験的活動の機会を充実させたことで、児童の関心高めたり、理解を深めたりすることにつながり、植物や動物など生物の分野の問題における正答率が目標値を上回った。

(2) 課題

- ・正答率が目標値に達していない内容がどの学年にもある。基礎・基本の定着が必要である。
- ・理科学的な用語や、器具の使い方がしっかりと定着されていない。各単元で、大事な用語や器具の使用法を必ずおさえることや、復習がより必要である。新単元において、前年度の既習事項の振り返りを取り入れることで、復習と共に学習の理解につながるようにする。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	<p>△「身近なしぜんのかんさつ」基礎の知識の問題では、目標値を上回った。</p> <p>▽それ以外の問題の正答率は、目標値に対して下回る数値が多かった。特に「植物の育ち方」活用の問題と解答形式が、記述式の問題の正答率が低い傾向にある。</p>	/	/
第5学年	<p>△「観察カード」のかき方に関する内容の率が高く、目標値を上回った。</p> <p>▽「筋肉の動き方」、「季節ごとの動物の様子」「百葉箱のつくり」「月の位置の変化」「体積の変化」に関する正答率が低い。</p>	<p>△「こん虫のからだのつくり」と「棒温度計のメモリの読み方」に関する内容の正答率が高い。</p> <p>▽「不完全変態」という用語についての正答率が低い。</p> <p>▽「方位磁針の使い方」に関する正答率が低い。</p>	/
第6学年	<p>△「メダカの見分け方」と「コイルの巻き数と</p>	<p>△「植物の成長」「天気の様子と気温」「動物の体</p>	<p>△「自然の観察」「光・音の性質」「風やゴムの働き」「電気の性質」に</p>

	<p>乾電池のつなぎ方による電流のはたらきについて問われた問題では、目標値を上回った。</p> <p>▽「植物の花のつくりと実」「人のたんじょう」が特に目標値との差が大きかった。</p> <p>▽グラフを基に実験結果を推測したり、考察したりする項目での正答率が低い。</p>	<p>と運動」「月と星」「物の体積と力」「雨水のゆくえと地面の様子」「電気のはたらき」に関する正答率が上昇している。</p> <p>▽「関節と筋肉の様子」「水の体積の変わり方」「空気の温まり方」の正答率が低い。</p>	<p>関する内容の正答率が上昇している。</p> <p>▽「回路」という用語についての正答率が低い。</p> <p>▽「方位磁針の使い方」に関する正答率が低い。</p> <p>▽「物質・エネルギー」「生命・地球」の領域どちらも目標値を下回っている。</p>
--	---	---	--

(2) 分析 (観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 「こん虫のからだのつくり」と「方位磁針の使い方」が特に正答率が低かった。単元学習時期だけ、その内容に触れるのではなく、新単元に入る前には既習事項を振り返ることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ある対象や実験結果をもとに、推測して解答する問題の正答率が低い。学習して分かったことが、別の場合だとどのようになるのかを類推する学習活動を取り入れ、考え方を身に付けさせることが重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 記述して説明問題に対して無回答の割合が高く、粘り強く取り組むことに課題がある。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して継続的に行う観察などは、その都度注意点を確認したり、何度も経験することで正答率が高い。 実験に使用する器具、機器を繰り返し実際に扱い、実感の伴った理解を深めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 事象がなぜ起こるかといった理由を結果と合わせて確認していく必要がある。 実験で起きた事象だけでなく、日常にどのように応用されていたり、活用されていたりするかについて考えていくことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度より正答率の上昇が見られたが、目標値よりは下回っている。 無回答の割合が高い。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 理科で覚える言葉や用語を単元の終わりに確認する時間を確保したり、掲示物等を活用して、単元以外の時間にも内容に触れられるようにしたりする工夫を取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 「問題の設定→予想→学習計画→観察・実験→結果の確認→考察」の学習の流れを、どの単元でも確立し、思考の流れを確立する。 学習したことを活用して取り組む内容を、単元の終末に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> キーワード等を示しながら、児童自身が文章としてまとめる学習形態を継続的に取り入れる。 実際に植物や昆虫などの生き物を育てることで、身近に動植物に慣れ親しみ、生き物の観察への関心を高める。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 生活実感を伴った理解を深めるために、実験用具や機器の実物に触れ、操作する機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題設定や検証計画の立案、観察、実験の結果の処理、考察の場面などは、最初に個人で考える機会を設けることで、自分の考えをもって問題解決に臨む力を養う。 考察場面においては結果の数値などをもとに、どんなことが考えられるか、なぜそのような結果になったかについてグループで協議する時間を設け、事象が起きた理由という視点をもち考えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 実物に触れる機会を増やすことで、より一層興味関心を高める。 学習の見通しや振り返りを、どの単元でも同じ学習の流れで、継続的に行うことで、自身の学びや変容を自覚できるようにする。また、振り返りを通して、自身の学びを自身の言葉で振り返る機会を積み重ね、自身の考えを表現することへの自信を高めるようにする。

